




平成 29 年 8 月 16 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	渡邊 直美
審 査 員	主 査 相島 慎一		
	副 査 副島 英伸		
	副 査 吉田 裕樹		
論文題名	題 名 Functional analysis of <i>Discoidin domain receptor 2</i> mutation and expression in squamous cell lung cancer  Lung Cancer, 110: 35-41, 2017		
論文審査結果の 要旨	<p>肺原発の扁平上皮癌に対する有効な治療法は確立されていないのが現状であるが、最近 Discoidin Domain receptor 2 (DDR2) の変異が、肺扁平上皮癌における分子標的治療の候補として報告された。しかしながらその役割についてはいまだ不明である。</p> <p>本研究では、ヒト肺癌臨床検体と細胞株において、免疫組織化学的染色によるタンパク発現、DNA シークエンスによる変異解析を行うとともに、DDR2 の安定な高発現細胞株を樹立後、invasion assay、マウスモデルへの皮下移植を用いた浸潤・転移能の解析、遺伝子発現マイクロアレイ、リン酸化タンパクアレイなどにより肺扁平上皮癌における DDR2 の役割を検討した。</p> <p>その結果、ヒト肺扁平上皮癌の 29% に DDR2 が高発現し、3.9% (2/51) にミスセンス変異 (T681I) を同定した。DDR2 野生型高発現株と DDR2 T681I 高発現株の細胞浸潤能やマウスモデルの肺転移巣には有意な差を認めなかったが、DDR2 野生型高発現株を移植したマウスは生存期間が短縮した。さらに、DDR2 野生型高発現株において、MMP-1 の発現増加および c-Jun のリン酸化亢進を認めた。</p> <p>以上の結果より、肺扁平上皮癌において DDR2 は c-Jun のリン酸化を介して MMP-1 の発現亢進を誘導し、がんの進展に関与する可能性が示唆され、T681I 変異型ではこれらのシグナル活性化がみられず、不活性型変異であると考えられた。本研究は、DDR2 高発現が肺扁平上皮癌の有効な治療標的になりうることを示しており、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から、論文内容に関連した事項、実験データの解釈、解析方法について質問がなされ、いずれも的確な回答を得た。したがって審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 29 年 8 月 16 日	最終試験日	平成 29 年 8 月 16 日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

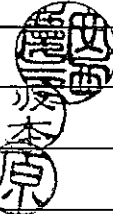
## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 8 月 21 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	高松 裕一郎
審 査 員	主 査 出原 賢治		
	副 査 池田 義孝		
	副 査 増岡 淳		
論文題名	<p>題 名 Differences in the genotype frequency of the <i>RNF213</i> variant in familial moyamoya disease patients in Kyushu, Japan</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Neurologia medico-chirurgica, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p><i>RNF213</i> はもやもや病(MMD)の易罹患性遺伝子で、日本人と韓国人では <i>RNF213</i> のバリエーションが MMD の発症に強く関連している。本バリエーションの遺伝子型頻度について地域によって異なる可能性がある。本研究では、九州の MMD 患者と健常対象者における遺伝子型頻度を国内の他地域の頻度と比較・検討した。</p> <p>九州出生の MMD 患者 (散発性 70 名、家族性 21 名) と健常対象者 108 名の遺伝子型を解析した。散発性 MMD では九州以外の既報結果と差は認められなかったが、家族性 MMD では差が認められた。また、健常対照者については、東北で MAF(minor allele frequency)が有意に低かった。また、パイロットシーケンス法とサンガー法で結果に差は認められなかった。</p> <p>以上の結果より、九州の家族性 MMD 患者と東北の健常対象者における <i>RNF213</i> バリエーションの遺伝子型頻度は、日本の他地域と異なることが示唆された。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 8 月 21 日	最終試験日	平成 29 年 8 月 21 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 9 月 5 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	伊東 陽一郎
審 査 員	主 査 安西 慶三		
	副 査 阪本 雄一郎		
	副 査 原 めぐみ		
論文題名	<p>題 名 High Cost of Hospitalization for Colonic Diverticular Bleeding Depended on Repeated Bleeding and Blood Transfusion: Analysis with Diagnosis Procedure Combination (DPC) Data in Japan 大腸憩室出血において入院医療費が高額となる要因は再出血と輸血である：DPC データを用いた解析</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Digestion in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は, DPC データを用いて解析した大腸憩室出血における入院医療費が高額となる要因について述べている。</p> <p>2009 年~2015 年に大腸憩室出血の診断で佐賀大学医学部附属病院に入院した患者 78 名。複数回入院歴のある患者は初回のみを対象とした。全ての患者は3日以内に下部消化管内視鏡が施行された。入院医療費の平均値は 445,091 円であり、500,000 円未満を低額、500,000 円以上を高額と定義し、各患者の年齢・性別・基礎疾患・抗血栓薬の内服状況・入院時のヘモグロビン値・内視鏡的止血の有無・再出血の有無・輸血の有無について解析した。その結果、単変量解析では高齢者・高血圧の既往・入院時ヘモグロビン低値・再出血を来した症例・輸血を要した症例で有意に高額となった。これからの項目について多変量解析を行うと、再出血を来した症例・輸血を来した症例で有意に高額となった。</p> <p>診療群分類包括評価 (DPC) は米国で使用されている DRG をもとに日本独自の調査でまとめられた診断群分類であり、DPC で大腸憩室出血の入院医療費が高額となる要因を解析した論文はない。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 9 月 5 日	最終試験日	平成 29 年 9 月 5 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 9 月 7 日






報告番号 甲	第 号	氏 名	竹下 枝里
審 査 員	主 査	江口 有 輝	
	副 査	青木 洋 介	
	副 査	尾崎 岩 太	
論文題名	<p>題 名 Higher Frequency of Reflux Symptoms and Acid-Related Dyspepsia in Women than Men Regardless of Endoscopic Esophagitis: Analysis of 3,505 Japanese Subjects Undergoing Medical Health Checkups.</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Digestion. 2016;93(4):266-71.</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、酸逆流症状やディスペプシア症状に対する国内で頻用される代表的な問診票である改定 F スケールを用いて人間ドック受診者の消化器症状や内視鏡所見の特徴を 5 施設の人間ドックで施行された上部内視鏡検査受検者 3,505 名から得られた問診票を用いて解析している。</p> <p>これによると、50 歳未満の若年者や女性、Grade A 以上の逆流性食道炎群で有意に改定 F スケールスコアが高値であった。また、F スケール 6 点以上を高スコアとした場合、そのリスク因子は若年、女性、食道裂孔ヘルニア、逆流性食道炎であった。また、内視鏡上、逆流性食道炎の所見がないにも拘らず、F スケールが高値である群は女性の割合が高かった。したがって、若年者や女性において改定 F スケールで捉えられる消化器症状を訴えやすく、また女性における症状は内視鏡所見の有無に拘らないことが明らかになった。</p> <p>以上の成績は、消化器症状、特に GERD 様症状および FD 様症状について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって、本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格    不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格    不合格
論文審査日	平成 29 年 9 月 7 日	最終試験日	平成 29 年 9 月 7 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 12 月 7 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	永柄真澄
審 査 員	主 査	阿 司 晃	
	副 査	田 中 恵 太 郎	
	副 査	尾 崎 岩 太	
論文題名	題 名 Work-sharing and male employees' mental health during an economic recession  雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Occupational Medicine Sep 14 2017		
論文審査結果の 要旨	<p>景気後退期に、ワークシェアが日本の従業員の作業環境の心理的変化と抑うつ症状にどのように影響したかを調べ、どの心理社会的因子が、従業員の精神衛生を予測するかを明らかにするのを研究の目的とした。</p> <p>職業性ストレス調査票 (JCQ) とうつ病自己評価尺度 (SDS) を使用し、2008 年の景気後退期始めと6か月後で日本の製造業の男性従業員336名対象に調査を行った。</p> <p>研究の結論として、仕事ストレスの減少は、従業員の抑うつ症状に影響を及ぼさなかったが、本研究期間に社会的援助の低い従業員は有意に抑うつ症状を示す危険性があり、職場の中の社会的及び感情的サポートがワークシェアリング時期にも重要なことが示唆された。</p> <p>以上の成績は、従業員の仕事ストレスとメンタルヘルスに関して新しい知見を加えたものであり、ワークシェアリング時期の従業員のメンタルヘルス維持のために事業者が留意すべきポイントを示した点で意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>また、外国語論文を解読し、利用する能力も十分にあるものと判断された。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 12 月 6 日	最終試験日	平成 29 年 12 月 6 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成29年11月7日






報告番号 甲	第 号	氏 名	田中 雄一郎
審 査 員		主 査	江口 有一郎 
		副 査	杉岡 隆 
		副 査	尾崎 岩太 
論文題名	題 名 Risk Factors for <i>Helicobacter pylori</i> Infection and Endoscopic Reflux Esophagitis in Healthy Young Japanese Volunteers 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Internal Medicine, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、若年者である健康ボランティア 550 名に対して、上部消化管内視鏡検査、上部消化器症状のアンケート (Frequency Scale for the Symptoms of GERD : FSSG)、ヘリコバクターピロリ尿中抗体測定におけるヘリコバクターピロリ感染の有無を評価し、逆流性食道炎と背景因子等について比較検討している。</p> <p>これによると、ヘリコバクターピロリ感染者は45人と全体の8.2%であった。また上部内視鏡検査によって診断された逆流性食道炎は38人と全体の6.9%であり、そのうちロザンゼルス分類グレードAは37人、グレードBは1人であった。さらに、多変量解析によって、ヘリコバクターピロリ感染のリスクとしては幼少期の井戸水摂取 (オッズ比 4.96、95%信頼区間 2.59-9.50, <math>p &lt; 0.01</math>)、また内視鏡で診断された逆流性食道炎のリスクとして、性別 (男性) (オッズ比 0.14、95%信頼区間 0.05-0.43, <math>p &lt; 0.01</math>) と肥満 (BMI &gt; 25) (オッズ比 5.23、95%信頼区間 1.76-15.52, <math>p &lt; 0.01</math>) が抽出された。</p> <p>以上の結果は、若年健康成人におけるヘリコバクターピロリ感染と逆流性食道炎のリスク因子について大多数例を用いた詳細な検討によって、我が国において若年者は高齢者と比較して逆流性食道炎は増加傾向であり、ヘリコバクターピロリ菌感染は減少傾向であるという新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	 合格	最終試験の結果	 合格
論文審査日	平成29年11月 7日	最終試験日	平成29年11月 7日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 12 月 5 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	馬場 耕一
審 査 員		主 査	相島 慎一
		副 査	藤本 一真
		副 査	木村 晋也
論文題名	題 名 Hypoxia-induced ANGPTL4 sustains tumour growth and anoikis resistance through different mechanisms in scirrhous gastric cancer cell lines 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Scientific Reports, 7, 11227, 2017		
論文審査結果の 要旨	<p>スキルス胃癌(Scirrhous gastric cancer; SGC)は高度に腹膜播種をきたしやすい悪性度の高い癌種であるが、アンギオポイエチン様タンパク 4(ANGPTL4)は低酸素状態で誘導される分泌型タンパクで、これまで癌の進展において種々の機能が報告されているが一定の見解が得られていない。本研究ではスキルス胃癌細胞株(SGC)におけるANGPTL4の生物学的機能を解析した。</p> <p>常酸素(20%O<sub>2</sub>)と低酸素(1%O<sub>2</sub>)環境下における胃癌細胞株のANGPTL4の発現を検討するために、ANGPTL4高発現SGC細胞株58As9のANGPTL4ノックダウン細胞株(KD)とコントロール株(SC)を樹立し、常酸素および低酸素環境下で単層培養または浮遊培養を行いその機能を比較した。さらにマウス皮下移植モデルおよび腹膜播種モデルを作成し機能を比較した。</p> <p>低酸素環境ではSGC株はその他の胃癌細胞株よりANGPTL4発現が高くHIF-1により制御されていた。また単層培養においてKDはSCに比べ細胞増殖が低下しc-myc発現抑制、p27発現亢進を認めた。KDではマウス皮下移植モデルにて腫瘍形成が完全に抑制され、浮遊培養でKDは低酸素環境下でFAK/Src/PI3K-Akt/ERKシグナルが抑制され、カズパーゼ経路が活性化されることでanoikisが促進された。さらにKDのanoikis感受性は、リコンビナント全長型ANGPTL4もしくはC端型ANGPTL4添加で抑制され、ANGPTL4がSGC細胞株のanoikis耐性に寄与することが証明された。またマウス腹膜播種モデルにおいてもKDでは播種形成が完全に抑制された。</p> <p>以上の結果から、ANGPTL4が異なる機序によってSGC細胞株の増殖とanoikis耐性に寄与し腫瘍増殖、腹膜播種形成を制御する可能性が示唆された。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から、論文内容に関連した事項、実験データの解釈、解析方法について質問がなされ、いずれも的確な回答を得た。したがって審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 12 月 5 日	最終試験日	平成 29 年 12 月 5 日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

平成 29 年 12 月 5 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	脇山 幸大
審 査 員	主 査	出原 賢治	
	副 査	副島 英伸	
	副 査	戸田 修二	
論文題名	<p>題 名 Low-dose YC-1 combined with glucose and insulin selectively induces apoptosis in hypoxic gastric carcinoma cells by inhibiting anaerobic glycolysis</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Scientific Reports, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、HIF-1<math>\alpha</math>阻害剤と glucose+insulin (GI)併用による apoptosis 誘導機序ならびにその臨床応用の可能性についての解析・検討を目的としている。</p> <p>胃癌細胞株である 58As9 を HIF-1<math>\alpha</math>阻害剤である YC-1 処理すると、低酸素環境のみで apoptosis 誘導を認めた。同処理は、低酸素環境下での HIF-1<math>\alpha</math>発現抑制、ならびに細胞内 ROS 蓄積を誘導した。NAC 処理により ROS 産生と apoptosis 誘導は抑制された。さらに、GI 併用を行うと、低酸素環境下での ROS 産生と apoptosis 誘導は増強された。これは、GI による GLUT1 発現増強と好気性解糖経路の増強によると考えられた。また、マウスへの腫瘍細胞移植モデルにおいて、YC-1 は腫瘍抑制効果を示し、GI 併用により、この効果はさらに増強された。</p> <p>以上の結果より、低用量 YC-1 と GI 併用療法は、低酸素環境下において ROS の過剰産生を引き起こして胃癌細胞の apoptosis を引き起こす新規の胃癌治療法となることを示唆していた。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	 合格	最終試験の結果	 合格
論文審査日	平成 29 年 12 月 5 日	最終試験日	平成 29 年 12 月 5 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		



平成30年 2月 5日

報告番号 甲	第 号	氏 名	東 裕一
審 査 員	主 査 倉 岡 晃 夫		
	副 査 村 岡 隆		
	副 査 上 町 哲 司		
論文題名	<p>題 名 Effect of limbering up of the muscles attached to the pelvis on the strength of upper and lower extremity and trunk muscles through the transitional network</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 The Journal of Physical Therapy Science. 30: 11-17, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、多くの筋との連絡を有する胸腰筋膜に連続する大殿筋上部、内腹斜筋もしくはハムストリングスを対象とする運動が、他の四肢や体幹の筋力に及ぼす影響について検討したものである。</p> <p>これによると、対象は健常成人男性 152 名 (平均 23.6±3.7 歳) で、腹筋・背筋の筋力測定を行う AB 群 (49 名)、膝伸筋・屈筋の筋力測定を行う K 群 (42 名)、肩屈筋・外旋筋の筋力測定を行う S 群 (61 名) に分け、大殿筋上部、内腹斜筋もしくはハムストリングスの運動を左右 20 回行わせた前後で、徒手筋力計を用いた筋力測定ならびに統計解析を行っている。その結果、大殿筋もしくはハムストリングスの運動を行った AB 群では、腹筋筋力と背筋筋力が有意に増大し、K 群においては、大殿筋の運動によって膝伸筋筋力が増大し、内腹斜筋の運動によって膝屈筋筋力が有意に増大した。また、S 群については、大殿筋の運動で肩屈筋の筋力が有意に増大することが明らかとなった。</p> <p>以上の結果は、骨盤に付着する筋の運動により、体幹及び上下肢の筋力が増大することを示し、リハビリテーションの対象となる筋の筋力維持あるいは増強に、非傷害部位の運動が寄与する可能性を明らかにした初めての報告であり、特に臨床応用の観点から意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格
論文審査日	平成30年 2月 5日	最終試験日	平成30年 2月 5日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 30年 2月 7日

報告番号 甲	第 号	氏 名	桑代 卓也
審 査 員		主 査	杉 岡 隆
		副 査	田 中 恵 太 郎
		副 査	川 口 淳
論文題名	<p>題 名 Impairment of health-related quality of life in patients with chronic hepatitis C is associated with insulin resistance C型肝炎患者においてインスリン抵抗性は生活の質を低下させる</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Gastroenterology, 49:317-323, 2014</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、C型慢性肝炎患者の健康関連 QOL 低下について、特にインスリン抵抗性に注目して、関連する臨床的要因を探索した分析的横断研究である。</p> <p>治療前のC型慢性肝炎患者 175 名を対象に、健康関連 QOL 尺度である SF-36 質問票を用いて身体的側面サマリー (PCS) の 6 項目、精神的側面サマリー (MCS) の 2 項目をそれぞれ測定、点数化した。臨床的要因については、インスリン抵抗性の指標である HOMA-IR に加え、年齢、性、体重、BMI、血算、Alb、T-Bil、AST、ALT、<math>\gamma</math>-GTP、T-Chol、空腹時の血糖およびインスリン値、75gOGTT パターン、ウイルス量、HCV genotype、肝生検による壊死・炎症所見および線維化のグレードを解析対象とした。</p> <p>PCS ならびに MCS の値をそれぞれ 2 群に分け、各項目との関連を単変量解析、有意であった項目に線維化グレードを加えて多変量解析を行った。その結果 HOMA-IR のみが唯一 PCS と有意に関連していた。MCS では有意な項目は得られなかった。HOMA-IR の値は PCS 値と有意に負の相関を示し、その結果は肝硬変や糖尿病患者を除いてもほぼ変わらなかった。これらのことから、患者のインスリン抵抗性を改善させることで C 型慢性肝炎患者の健康関連 QOL を改善させ得る可能性が示唆された。</p> <p>以上の結果は、C 型慢性肝炎患者の健康関連 QOL 改善によって、患者の治療アドヒアランスの向上、さらには予後の改善につながるものであり、意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格
論文審査日	平成 30年 2月 7日	最終試験日	平成 30年 2月 7日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成30年2月13日

報告番号 甲	第 号	氏 名	山本 甲二
審 査 員	主 査	三浦 伸一郎	
	副 査	相島 慎一	
	副 査	平田 修二	
論文題名	題 名 Perforation and Postoperative Bleeding Associated with Endoscopic Submucosal Dissection in Colorectal Tumors: An Analysis of 398 Lesions Treated in Saga, Japan  雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Internal Medicine, In press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、大腸腫瘍に対する下部消化管内視鏡を用いた大腸内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD: endoscopic submucosal dissection) の合併症に関する多施設レトロスペクティブ研究である。本治療法は2012年4月より健康保険収載されたが、本論文では保険収載後の大腸 ESDの合併症について多施設の症例を用いて解析している。方法としては2012年4月から2016年5月に佐賀大学及び関連病院で施行された症例373症例 (398病変) について合併症のある群とない群に区分し、レトロスペクティブに合併症のリスクについて評価した。373 症例の平均年齢は68.7±9.9歳、平均切除時間は74.0±56.2分(20~427分)であった。合併症である後出血は 398例中19例 (4.8%)、穿孔は12例 (3.0%) で認められた。後出血、穿孔例は内視鏡処置で対応可能であり、緊急手術を要した症例はなかった。合併症のある群とない群の多変量解析を用いた検討では、後出血のリスクとしては病変部位が直腸であることおよび処置時間の長さであった。また穿孔のリスクについては処置時間の長さであった。結論として保険として大腸ESDは、保険収載前の報告と比較して合併症は多くなく、また新たなリスクもなく安全に施行できると考えられた。</p> <p>以上の成績は、新しい治療法である大腸 ESD の合併症に対して新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成30年 2月13日	最終試験日	平成30年 2月13日
チェック 山	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 30 年 1月31日

報告番号 甲	第 号	氏 名	松浦 聡子
審 査 員	主 査 江口 有一郎		
	副 査 入江 裕之		
	副 査 阿部 雄一郎		
論文題名	<p>題 名</p> <p>Outcomes of patients undergoing endoscopic hemostasis for the upper gastrointestinal bleeding was not influenced by the timing of hospital emergency visit in Japan.</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Digestion (In printing)</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、非静脈瘤性上部消化管出血に対し緊急内視鏡的止血術を施行した患者に関して 1) 診療時間内に受診した患者と時間外に受診した患者、2) 入院患者と外来患者の予後の違いを述べている。方法は、非静脈瘤性上部消化管出血に対し緊急内視鏡止血術を施行した 443 人の患者を対象とし、入院患者と外来患者の 2 群に分類し、外来患者は受診時間が時間内か時間外か 2 群に分類し、それぞれの患者の背景や予後を検討した。結果として、診療時間外に緊急止血術を施行された患者は診療時間内に施行された患者と比較し、内視鏡的止血術を施行されるまでの時間は有意に長かったが、予後に差はなかった。一方、入院患者は、外来患者よりも予後が悪かった。入院患者は外来患者に比較して有意に高齢であり、低栄養で糖尿病や悪性腫瘍の合併例が多かった。結論として、非静脈瘤性上部消化管出血に対し緊急止血術を施行された患者の予後は診療時間内であっても時間外であっても違いはなく、入院患者では外来患者に比べて予後が悪く入院患者の状態の悪さが主な原因であることが明らかになった。</p> <p>以上の成績は、非静脈瘤性上部消化管出血に対し緊急内視鏡的止血術を施行した患者の予後について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成30年 1月 31日	最終試験日	平成30年 1月 31日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成30年1月29日

報告番号 甲	第 号	氏 名	白井 慎平
審 査 員	主 査	東岡 栄三朗	
	副 査	安西 慶三	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	題 名 Immunogenicity of Quadrivalent Influenza Vaccine for Patients with Inflammatory Bowel Disease Undergoing Immunosuppressive Therapy  雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Inflammatory Bowel Diseases, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、4価インフルエンザワクチンの成人炎症性腸疾患患者に対する治療法による免疫原性と追加免疫効果について検討している。</p> <p>成人炎症性腸疾患患者に対して単回接種群と追加免疫群を無作為に割り当て、4価インフルエンザワクチンを皮下投与し、各インフルエンザ株に対する抗体力価 (HI 価) を測定した。幾何平均抗体価 (GMT)、上昇倍率 (GMTR)、seroprotection rate (SP%)、seroconversion rate (SC%) を算出し、国際基準に則って免疫原性を評価した。</p> <p>132人の炎症性腸疾患患者が登録され、22人の患者が免疫調整薬単剤療法を、16名が抗 TNF-<math>\alpha</math> 製剤単剤療法を受けていた。15人が免疫調整薬と抗 TNF-<math>\alpha</math> 製剤の併用療法を受けていた。いずれのワクチン株に対しても1回接種で国際基準を満たす免疫原性を示した。追加接種による更なる抗体価の上昇は認めなかった (幾何平均力価: H1N1: <math>p = 0.81</math>; H3N2: <math>p = 0.79</math>; B/Phuket: <math>p = 0.82</math>; B/Texas: <math>p = 0.84</math>)。抗 TNF-<math>\alpha</math> 製剤 (特にインフリキシマブ) を投与されている患者で、血中濃度が保たれている患者ではインフルエンザ A 型に対する抗体産生が低かった (SP%: OR 0.22 (0.07-0.68), SC%: 0.19 (0.06-0.56))。</p> <p>免疫能低下をきたす患者や免疫抑制療法を受けている患者における、ワクチン接種の効果や時期については、臨床現場では問題になることが多い。本論文では免疫抑制をきたす薬剤の投与を受けている炎症性腸疾患患者におけるインフルエンザワクチンの抗体産生能を評価した研究であり、臨床的意義は大きいと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成30年1月29日	最終試験日	平成30年1月29日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 30 年 2 月 6 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	中村 志織
審 査 員	主 査	阿 司 晃	
	副 査	新 地 浩 一	
	副 査	坂 本 麻 衣 子	
論文題名	<p>題 名 The Effect of Pottery Therapy on Heart Rate Variability in College Students with Mental Health Problems</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Mental Disorders and Treatment Volume 3: Issue 1. doi: 10.4172/2471-271X.1000144. 2017</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、佐賀大学保健管理センターで実施されている陶芸療法が、自律神経機能にどのような影響を及ぼしているのか、心拍変動解析を用いて客観的に述べている。</p> <p>精神的な問題を抱え、センターに通所する学生 11 名 (平均年齢 20.6±1.4 歳、うち男性 6 名、女性 5 名) を対象に、器や置物などを作るグループセッションが実施された。療法の前後に、左右の腕の内側に心電計のパッドを貼り、5 分間の心拍変動測定を行い、同一対象者が制作を行わなかった場合を対照群のデータとして記録した。その結果、ポアンカレプロットパラメーター法によって得られた SD1、SD2、S、および RMSSD が対象群と比較し、療法群では有意に拡大した。(p&lt;0.05)。しかし、LF/HF では有意な変化は見られなかった(p = 0.374)。非療法群では、いずれの数値も有意な変化は見られなかった。</p> <p>以上の結果は、本研究における新しい知見として、ポアンカレプロット法を用いた心拍変動解析において、陶芸療法が自律神経系機能の安定化に有効であることを示しており、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。また、外国語論文を解読し、利用する能力も十分にあるものと判断された。したがって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 30 年 1 月 24 日	最終試験日	平成 30 年 2 月 6 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成30年1月30日

報告番号 甲	第 号	氏 名	野中 小百合
審 査 員	主 査	青木 洋介	
	副 査	川口 孝	
	副 査	荒金 尚子	
論文題名	<p>題 名 Incidence of aspiration pneumonia during hospitalization in Japanese hospitalized cases did not increase whereas concern factors were exacerbated in a time-dependent manner: analysis of DPC data</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition, 2018 (in press)</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>【研究の背景】 高齢患者は入院中に誤嚥性肺炎 (AsN) を発症する一定のリスクを有する。改善にも時間を要し, 抗菌薬治療も複雑・長期になることが考えられる。どのような因子が AsN の発症に関与するか, また, 経年的にその関与の度合いがどのように変化しているかを検討することは, 今後の高齢入院患者のマネジメントにおいて有用ではないか?</p> <p>【方法】 佐賀大学医学部附属病院 DPC データ (2010~15) から 63,390 の肺炎事例を抽出し, AsN の有無 (主治医の記載に依る) 別に, DPC での検索が可能な臨床因子との関連が検討された。また, 前期 (2010~12) と後期 (2013~15) に分け, AsN の発症頻度と臨床的関連因子 (concern factor) との関係性についても検討された。</p> <p>【結果】 男性, 年齢, ICU/ECU でのケア, 救急車の利用, 嚥下障害が AsN の有意な関係因子であり, 手術例では有意に発症が低かった。年齢がより高く, 嚥下障害を有する事例および手術症例が増加した後期においては, 前期に比べて AsN の頻度は低い傾向が認められた。</p> <p>【考察】 AsN のリスクと考えられる因子を有する患者は後期で増加していたものの, AsN の発症事象が増加していない (軽度ながら減少) ことは, 周術期患者ケアの質向上などが, その理由の一つと考えられるかも知れない。今後, AsN の発症予防にどのような因子に関与するか, 更に解析することは, 入院患者の医療的管理の面においても重要であると考えられる。</p> <p>以上より, 本論文は, 博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において, 各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが, いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成30年1月30日	最終試験日	平成30年1月30日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において, 研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年1月17日

報告番号 甲	第 号	氏 名	森田由佳
審 査 員	主 査	阿司 晃	
	副 査	阿部 音也	
	副 査	浅見 豊子	
論文題名	<p>題 名 Increased activity in the right prefrontal cortex measured using near-infrared spectroscopy during a flower arrangement task</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Psychiatry in Clinical Practice 21 August, 2017</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>フラワーアレンジメント (FAP) は病院や福祉施設で園芸療法の一つとして行われているが、その評価方法は主観的なものが多い。FAPの効果を近赤外線分光砲 (NIRS) を使った脳活動の変化と、唾液アミラーゼ活性 (sAA) で客観的に評価することが本研究の目的である。</p> <p>FAPの内容は指示書に書かれた材料の配置を一時的に記憶し、正しい位置に材料を配置することとした。対照としてブロックタップテスト (BTT) を行った。</p> <p>脳活動は右前頭前野で安静時とFAP時、安静時とBTT時で有意差が認められた。sAAは安静時とFAP後に、FAP後とBTT後に有意差が認められた。</p> <p>FAPによる右前頭前野の賦活およびBTTと同様の視空間ワーキングメモリの賦活が示された。sAAの結果からFAPではBTTよりストレスは低い状態で課題遂行が可能ながわかった。</p> <p>本研究でFAPによるストレス軽減効果と脳賦活効果が示され、FAPの患者リハビリテーションの応用時の客観的治療効果判定法が示された。</p> <p>以上の結果は、FAPの患者リハビリテーション応用に関して、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>また、外国語論文を解読し、利用する能力も十分にあるものと判断された。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成30年1月16日	最終試験日	平成30年1月16日
チェック ☑	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		



平成 30 年 1 月 31 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	行元 崇浩
審 査 員	主 査	安 西 慶 三	
	副 査	水 口 昌 伸	
	副 査	入 江 裕 之	
論文題名	<p>The Palliative Effect of Endoscopic Uncovered Self-expandable Metallic Stent Placement Versus Gastrojejunostomy on Malignant Gastric Outlet Obstruction: A Pilot Study with a Retrospective Chart Review in Saga, Japan.          (悪性疾患に伴う胃排出路閉塞に対する内視鏡的ステント留置術と外科的胃空腸バイパス術の緩和効果の比較について)</p> <p>Internal medicine, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、悪性胃十二指腸狭窄患者に対する緩和的治療として内視鏡的胃十二指腸ステント留置と胃空腸バイパス術の比較およびステント術における臨床的成功を妨げる因子について述べている。</p> <p>2010 年 1 月から 2016 年 12 月に悪性胃十二指腸狭窄に対して緩和的治療を行った 65 名を内視鏡的ステント留置術 (S 群) 38 名、胃空腸バイパス術 (B 群) 27 名について分け、悪性胃十二指腸狭窄患者に対する緩和的治療としての有用性について検討した。S 群と B 群の比較において技術的成功、臨床的成功、術後血漿蛋白質、退院率、食事摂取不能となつてから死亡するまでの期間、術後生存期間に有意差はなかった。術後に抗癌剤治療を受けることができた患者は B 群で有意に多かった (51.4% vs. 26.3%; P=0.042)。治療から食事摂取可能となるまでの期間は S 群において有意に短かった (4.5 vs. 3.0 days; P=0.013)。S 群における臨床的成功因子の有意差はでなかったものの、留置するステントが長いほど臨床的成功率が低い傾向にあった (OR: 0.60, 95%CI: 0.36-1.01; P=0.53)。</p> <p>これらのことから内視鏡的ステント留置術は治療から食事摂取開始が早く、悪性胃十二指腸狭窄患者に対する緩和的治療として有効な手段の一つである。</p> <p>以上の成績は、悪性胃十二指腸狭窄患者に対する緩和的治療について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よつて本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よつて、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格    不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格    不合格
論文審査日	平成 30 年 1 月 31 日	最終試験日	平成 30 年 1 月 31 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 30年 3月 7日

報告番号 甲	第 号	氏 名	岡田 倫明
審 査 員		主 査	村 岡 隆
		副 査	市 場 正 良
		副 査	青 木 清 介
論文題名	<p>題 名 Recommendations from primary care physicians, family, friends, and work colleagues influence patients' decisions related to hepatitis screening, medical examinations, and antiviral treatment かかりつけ医、家族、知人、職場からの勧めは肝炎に関する受検・受診・受療の患者意思決定に影響する</p> <p>雑誌名、巻（号のみの雑誌は号）、頁－頁、発行西暦年 Experimental and Therapeutic Medicine, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文はウイルス肝炎の診療における3つのステップ、すなわち受検（肝炎ウイルス検査）、受診（精密検査）、受療（抗ウイルス治療）について、患者が各ステップを受ける意思決定に対してどの情報・勧奨が効果的であったかを探索した研究である。</p> <p>2013年3月から8月の間に、県内11の医療機関で抗ウイルス治療を受けている患者182名に対し、各ステップに関する計18個の情報源のうちどれに触れ、かつその中でどの勧奨が各ステップを受ける決断に最も影響を与えたかについて、肝炎コーディネーターによる聞き取り調査を行なった。その結果、どのステップにおいてもかかりつけ医からの勧めが最も多く、また影響力も最も高かった。保健師、家族・友人、職場からの勧めは、それぞれかかりつけ医に次いで接触が多く影響力もあった。TVCM等のメディアについては、接触は多かったが影響力は強くなかった。これらの結果から、肝炎患者の各ステップへのアクセス促進のために、肝疾患に関心のあるかかりつけ医を増やすこと、また接触機会の多いメディアからの適切な情報提供によって、比較的影響力のある家族・友人、職場からの勧めを増やすことが効果的と考えられた。</p> <p>以上の結果は、肝炎患者に対する適切な診療の促進から肝がん発症リスクの低下につながり、意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 30年 3月 7日	最終試験日	平成 30年 3月 7日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

報告番号 甲	第 号	氏 名	古賀 浩木
審 査 員	主 査 江口 有一郎		①
	副 査 安西 慶三		②
	副 査 青木 茂久		③
論文題名	<p>題 名 Occult hepatitis B virus infection and surgical outcomes in non-B, non-C patients with curative resection for hepatocellular carcinoma</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 World journal of Hepatology, 9 (35), 1286-1295, 2017</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、Non HBV Non HCV (NBNC) 肝癌の risk factor として、血清HBs抗原が陰性であるが血中または肝臓中に検出される状態（オカルト HBV）に着目し、NBNC 肝癌症例におけるオカルト HBV 感染状況を解析し、各因子が予後や再発に与える影響について検討した論文である。</p> <p>方法として、対象は1984 年から 2012 年までに初回手術を行った原発性肝癌477 例のうち、HBs抗原、HCV抗体が陰性のNBNC 肝癌 83 例の非癌部からDNA 抽出が可能であった 78 例。非癌部の背景肝よりDNAを抽出しRT-PCR法により検出。2 項目以上で DNA増幅を認めた症例をオカルトHBV症例とした。結果として、27 例(34.6%) でオカルト HBV 陽性であった。その他、アルコール多飲 19 例(24.4%)、糖尿病 27例(34.6%)、肥満 24 例(30.8%)、NASHが8例(10.3%)であった。オカルト HBV陽性例と陰性例で、臨床病理学的因子、肝の線維化、予後、再発に関する解析を行ったが、有意差はなかった。各因子と予後に関して多変量解析では、予後およびdisease free survivalに関しては 脈管侵襲の有無が有意な因子であった。結論として、NCNB 肝癌切除例の34.6%でオカルトHBV感染を認め、82.1%でHBV遺伝子の一部が検出された。また予後を規定しているのは腫瘍因子で、オカルトHBV感染と術後の再発や予後との間に関連性は認めなかった。</p> <p>以上の成績は、NBNC 肝癌症例におけるオカルト HBV の意義について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	④ 合格 不合格	最終試験の結果	④ 合格 不合格
論文審査日	平成 30年 3月 9日	最終試験日	平成 30年 3月 9日
チェック ☑	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

平成30年3月5日

報告番号 甲	第 号	氏 名	小野原 貴之
審 査 員	主 査	坂口 嘉 郎	
	副 査	尾山 純一	
	副 査	池田 裕次	
論文題名	題 名 Plasma absorption membranes are able to efficiently remove High Mobility Group Box-1 (HMGB-1) 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Nippon Medical School, (in press)		
論文審査結果の 要旨	<p>HMGB-1 は敗血症において炎症反応を促進させるメディエーターであり、治療標的として注目されている。しかし、血液浄化療法によりこれを除去する方法の有効性については十分検討されていない。申請者らは血漿吸着カラムを用いて HMGB-1 が除去されるかを検討した。</p> <p>3種類の血漿吸着カラム (IM-TR、IM-PH、BRS) の 1/350 スケールカラムを作成し、HMGB-1 を含有するウシ胎児血清をカラムに通し、25分、50分、75分後の HMGB-1 除去率を求め、総除去量を算出した。その結果、IM-TR で最も HMGB-1 除去率が高く、25分時点で約 90%であった。BRS はどの時相においても約 50%の除去率であり、IM-PH では 10%以下であった。総除去量は IM-TR、BRS、IM-PH の順に高く、3群間で有意差を認めた。血漿吸着療法に用いられるカラムの吸着リガンドは IM-TR がトリプトファン、IM-PH がフェニルアラニン、BRS は陰イオン交換樹脂のスチレンジビニルベンゼンであり、疎水相互作用、静電相互作用による吸着力の差が、HMGB-1 除去能に影響していることが考えられた。</p> <p>本研究は、HMGB-1 が血漿吸着カラムにより吸着されることを示したものであり、このことは敗血症患者に対し、HMGB-1 を血漿吸着療法により除去する治療法を検討する基礎データを提供する意義がある。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	Ⓔ合格 不合格	最終試験の結果	Ⓔ合格 不合格
論文審査日	平成30年3月5日	最終試験日	平成30年3月5日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

報告番号 甲	第 号	氏 名	田中 達也
審 査 員	主 査	相 築 慎 一	
	副 査	末 岡 栄 三 朗	
	副 査	抱 地 裕	
論文題名	題 名 Possible involvement of pericytes in intraplaque hemorrhage of carotid stenosis  雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Neurosurgery, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>【目的】 プラーク内出血 (intraplaque hemorrhage; IPH) は多くの場合、新生血管の破裂に起因する。しかし血管内に形成される新生血管の脆弱性の要因は不明である。本研究では、血管周皮細胞 (pericyte) に注目し、IPH と血管周皮細胞の関係を調べた。</p> <p>【方法】 2008 年 8 月～2016 年 3 月の間に、頸動脈狭窄をきたした 53 人の患者、56 病変に対して頸動脈内膜切除術を施行し、標本を採取した。IPH は赤血球膜タンパクである Glycophorin A の染色を用いて評価し、high IPH (陽性染色面積 &gt; 10%) および low IPH (陽性染色面積 &lt; 10%) の 2 群に分けた。さらに新生血管の血管内皮細胞マーカーとして CD34 染色を、血管周皮細胞マーカーとして NG2 および CD146 染色を用いてそれぞれ評価し、IPH とプラーク内新生血管の関係を検討した。</p> <p>【結果】 56 病変の頸動脈狭窄のうち、37 病変が high IPH で、19 病変が low IPH であった。CD34 陽性新生血管数は 2 群間で有意差はなかった。しかし、NG2 および CD146 陽性新生血管の密度は high IPH は low IPH に比べて有意に低かった。</p> <p>【結論】 high IPH を有するプラークはプラーク内新生血管の周皮細胞数が少ないことと関連することが示唆された。本知見は周皮細胞を標的とする新規治療戦略の開発に役立つ可能性がある。</p> <p>以上の成績は、頸動脈内プラークの病理学的特徴に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 30 年 3 月 13 日	最終試験日	平成 30 年 3 月 13 日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年2月2日

報告番号 甲	第 号	氏 名	本武 敏弘
審 査 員		主 査	古賀明美
		副 査	新地 浩一
		副 査	田 渕 康子
論文題名	<p>題 名 A study on work engagement among nurses in Japan: the relationship to job-demands, job-resources, and nursing competence</p> <p>Journal of Nursing Education and Practice, Vol 6(5), 111-117, 2016</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、仕事に向き合うポジティブな心理状態である看護師のワーク・エンゲイジメント (Work Engagement) の実態、仕事の要求度 (Job-Demands) および仕事の資源 (Job Resource) との関連、さらに仕事の資源が看護師のワーク・エンゲイジメントを介して看護実践能力 (Nursing Competence) への影響について述べている。</p> <p>日本国内の6つの精神科病院および2つの総合病院に勤務する看護師917名を対象に、Utrecht Work Engagement Scale (UWES-J), Brief Scale for Job Stress-Nurse (BSJS-NS), Clinical Nursing Competence Self-Assessment Scale (CNCSS) の3つのスケールを用いて郵送調査を実施している。</p> <p>その結果、仕事の要求度とワーク・エンゲイジメントとの間には弱い負の相関があり、仕事の資源とワーク・エンゲイジメントの間にはやや強い正の相関があった。ワーク・エンゲイジメントを従属変数、仕事の要求度および仕事の資源を独立変数とした重回帰分析においても、仕事の資源の下位尺度である「達成感」が最も影響を与えていた。パス解析において、仕事の資源は、ワーク・エンゲイジメントを介して看護実践能力に有意に影響していたが、パス解析のモデル適合は十分ではなかった。</p> <p>以上の結果は、仕事の資源の一つである「達成感」を高めることにより、ワーク・エンゲイジメントを介して看護実践能力を高めることを明らかにしたものであり、看護実践能力の向上において新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した質問事項について、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成29年11月13日	最終試験日	平成30年2月2日
チェック ✓ <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		